

# 戸倉上山田商工会 景気動向調査

平成28年4～6月期

目 次	
I. 調査要領.....1	建設業.....8
II. 調査結果の概要.....2	小売業・サービス業.....11
III. 業種別 今期の業況および来期予測.....3	観光・宿泊業.....14
全業種.....5	IV. 転記表.....20
製造業.....5	

## I. 調査要領

1. 調査時点：平成28年9月
2. 調査対象：戸倉上山田商工会管内事業所140件
3. 調査方法：アンケート調査
4. 分 析：株式会社東京商工リサーチ
5. 回答状況：85件（有効回答率60.7%）
6. 回答企業の従業員数別、資本金別、業種別内訳

### 【従業員数別】

	件数合計	5人以下	6人～20人	21人～50人	51人～100人	101人～300人
回答数	83	44	29	7	2	1
構成比 (%)	100.0	53.0	34.9	8.4	2.4	1.2

### 【資本金別（法人のみ）】

	件数合計	500万円以下	500万円超～1,000万円以下	1,000万円超～2,000万円以下	2,000万円超
回答数	68	30	24	11	3
構成比 (%)	100.0	44.1	35.3	16.2	4.4

### 【業種別】

	件数合計	製造業	非製造業			観光・宿泊業
			建設業	小売業・サービス業		
回答数	85	29	56	19	23	14
構成比 (%)	100.0	34.1	65.9	22.4	27.1	16.5

### 【業種別（詳細）】

	件数合計	製造業	建設業	小売業	飲食店	観光・宿泊業	サービス業	その他
回答数	82	29	19	14	6	14	2	1
構成比 (%)	100.0	35.4	23.2	17.1	7.3	17.1	2.4	1.2

### 【注】

○構成比 (%) については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○D I (Diffusion Indexの略)

D I (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「低下」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらが強いかを比べて変化の方向をみようとするものです。

ただし、仕入価格を例にみると、上昇は負担増になるため、企業にとってはマイナス方向の動きとなります。このように、増加（又は「上昇」など）がプラス方向の動きとはならない項目（仕入価格、在庫、雇用（人員過不足感））について、本報告書では「減少したと答えた企業割合から、増加したと答えた企業割合を差引いた数値」でD Iを表しています。

## Ⅱ. 調査結果の概要

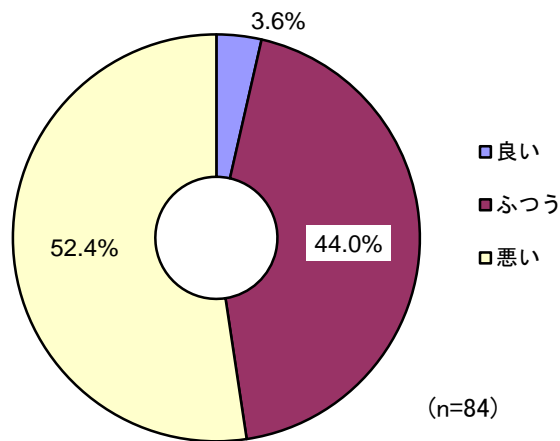
### 1. 景況感

「今期（平成28年4～6月）の市内景気」の水準について、「良い」は3.6%、「ふつう」は44.0%、「悪い」は52.4%となっています。

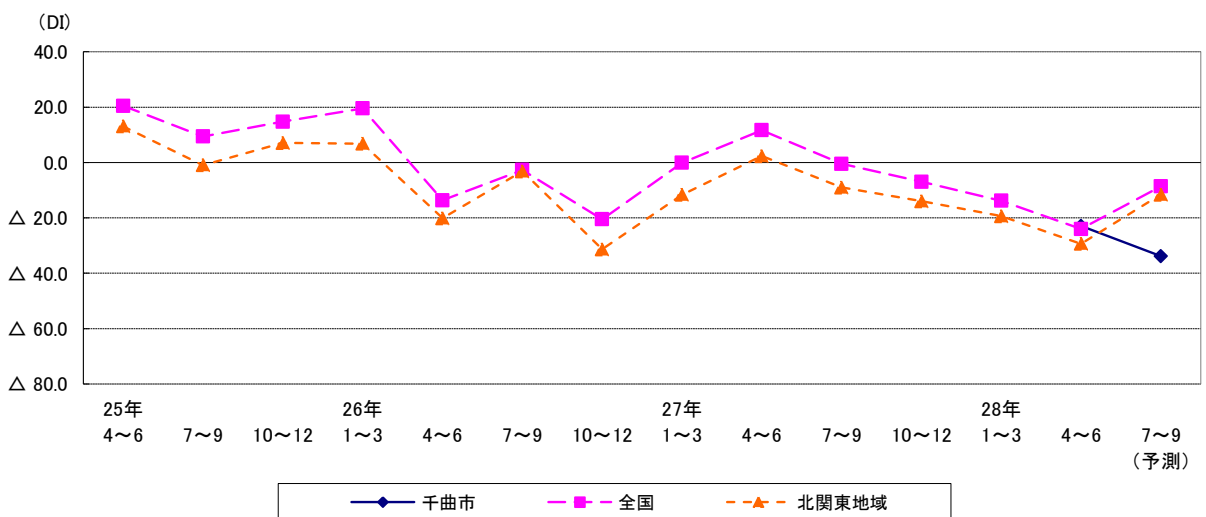
前期（平成28年1～3月）と比較した今期の「市内景況感DI」は、マイナス22.9ポイントでした。来期はマイナス33.8ポイントと今期より10.9ポイント下降し、悪化幅がかなり拡大すると見込まれています。

なお、内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と北関東地域の景況感（7・8月調査平均）をみると、全国は10.2ポイント下降のマイナス24.0ポイント、東海は10.0ポイント下降のマイナス29.3ポイントといずれも悪化幅が大きく拡大しました。先行きの見通しは、全国、北関東ともに改善すると見込まれています。

今期の市内景気（水準）



市内景況感DI（前期比）と全国・北関東地域の景況感



	25年 4～6	25年 7～9	26年 10～12	26年 1～3	26年 4～6	26年 7～9	26年 10～12	27年 1～3	27年 4～6	27年 7～9	27年 10～12	28年 1～3	28年 4～6	28年 7～9 (予測)
千曲市													△22.9	△33.8
全国	20.5	9.4	14.8	19.6	△13.6	△2.7	△20.5	△0.1	11.7	△0.5	△7.0	△13.8	△24.0	△8.6
北関東地域	13.1	△0.9	7.1	6.8	△20.1	△3.2	△31.3	△11.6	2.3	△9.0	△14.0	△19.3	△29.3	△11.6

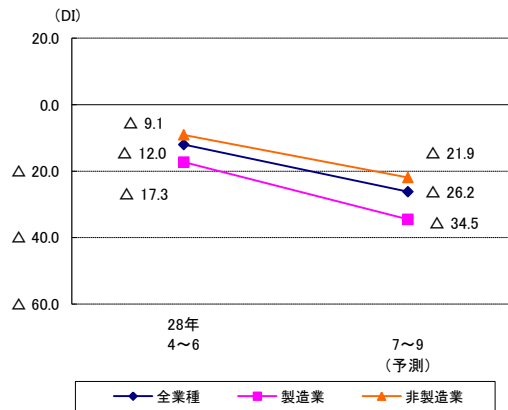
※景況感DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

※「全国」および「北関東地域（茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県）」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、7～9（予測）値は7月・8月調査の平均値である。

## 2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」は、全業種でマイナス 12.0 ポイントとなりました。来期はマイナス 26.2 ポイントと、悪化幅がかなり拡大すると予想されています。製造業はマイナス 17.3 ポイントとなり、非製造業はマイナス 9.1 ポイントとなりました。来期は、製造業・非製造業ともに厳しさが大幅に強まると予想されています。

業種別業況 DI（前期比）の動き（実績）と来期の予測



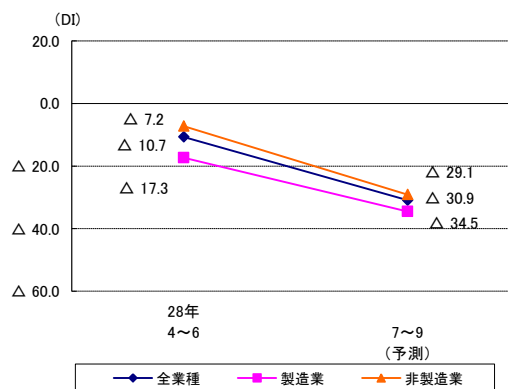
	28年 4~6	7~9 (予測)
全業種	△ 12.0	△ 26.2
製造業	△ 17.3	△ 34.5
非製造業	△ 9.1	△ 21.9

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 3. 売上高 DI

「売上高 DI」は、全業種で今期はマイナス 10.7 ポイントとなりました。来期はマイナス 30.9 ポイントと非常に大きく減少する見通しです。今期、製造業はマイナス 17.3 ポイント、非製造業はマイナス 7.2 でした。来期は製造業で大きく減少し、非製造業は非常に大きく減少すると予想されています。

業種別売上高 DI の動き（実績）と来期の予測



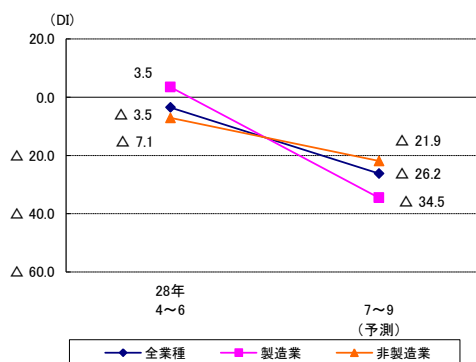
	28年 4~6	7~9 (予測)
全業種	△ 10.7	△ 30.9
製造業	△ 17.3	△ 34.5
非製造業	△ 7.2	△ 29.1

※売上高 DI=前期比で、売上が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

#### 4. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はマイナス 3.5 ポイントとなりました。来期はマイナス 26.2 ポイントと非常に大きく悪化を強める見通しです。製造業は、今期プラス 3.5 ポイントとなり、来期はマイナス 34.5 ポイントと非常に大きく悪化する見通しです。非製造業はマイナス 7.1 ポイントとなり、来期はマイナス 21.9 ポイントと大きく悪化を強める見通しです。

業種別収益 DI の動き（実績）と来期の予測



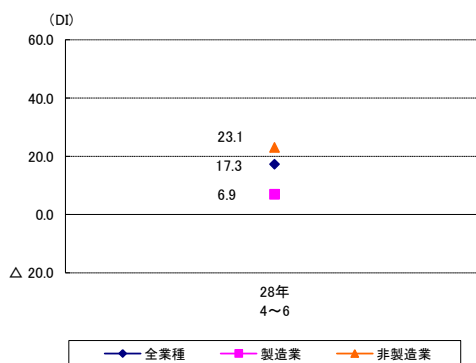
	28年 4~6	7~9 (予測)
全業種	△ 3.5	△ 26.2
製造業	3.5	△ 34.5
非製造業	△ 7.1	△ 21.9

※収益 DI=前期比で、収益が「改善」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

#### 5. 雇用（人員過不足感）DI

「雇用（人員過不足感）DI」は、全業種で今期はプラス 17.3 ポイントと、不足傾向でした。製造業はプラス 6.9 ポイント、非製造業はプラス 23.1 ポイントといずれも不足傾向で、非製造業の不足感がより強い状況でした。

業種別雇用の動き（実績）と来期の予測



	28年 4~6
全業種	17.3
製造業	6.9
非製造業	23.1

※雇用（人員過不足感）DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

### Ⅲ. 業種別今期の業況及び来期予測

#### 【 全業種 】

##### 景況・業況

今期の市内景気については、景況感 DI（前期比）はマイナス 22.9 ポイントとなりました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 12.0 ポイントとなりました。

##### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 10.7 ポイントとなりました。

今期の収益 DI はマイナス 3.5 ポイントとなりました。

##### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI はマイナス 6.1 ポイントとなりました。

今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 22.6 ポイントとなりました。

##### 資金繰り・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 17.8 ポイントとなりました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 27.4 ポイントとなりました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）はマイナス 6.4 ポイントとなっています。

今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期は 43.0%、来期は 27.4%です。次に多いのは、今期では「技術革新」7.6%、来期では「事業（能力）拡大」および「福利厚生」が同率で 8.2%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 50.6%、来期 64.4%となっています。

##### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 17.3 ポイントとなりました。

##### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

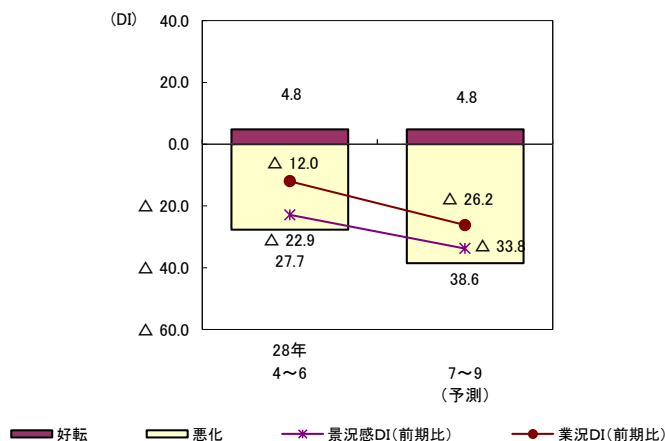
経営上の問題点は、第 1 位「売上（受注）の不振」47.1%、第 2 位「利益の減少」および「機械設備の老朽」が同率で 32.9%、第 3 位「過当競争の激化」16.5%、第 4 位「原材料（仕入れ）高」および「人件費高」が同率で 12.9%、第 5 位「求人難」10.6%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」58.5%、第 2 位「助成制度（補助金等）」43.9%、第 3 位「新設の融資制度」22.0%、第 4 位「公共事業の増加」15.9%、第 5 位「雇用維持支援」12.2%の順となりました。

##### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 33.8 ポイントで今期より 10.9 ポイント下降、業況 DI はマイナス 26.2 ポイントで同様に 14.2 ポイント下降し、いずれも悪化幅がかなり拡大すると予想されています。また、売上高 DI はマイナス 30.9 ポイントで今期より 20.2 ポイント下降と、非常に大きく減少すると見込まれています。

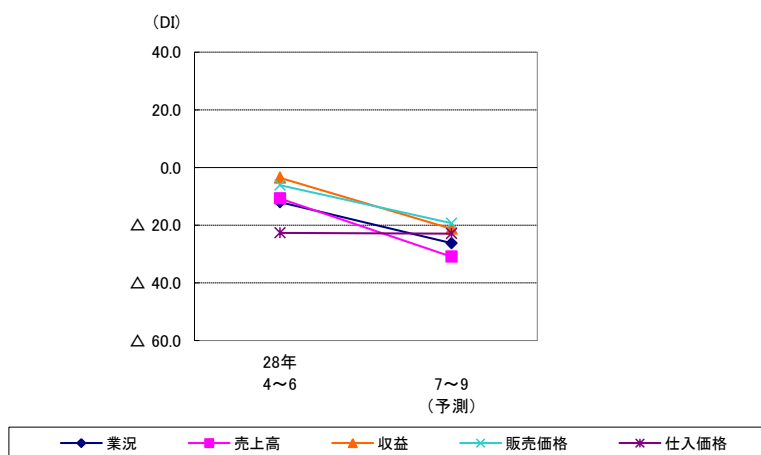
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



※景況感（水準）は割合で表示。景況感（前期比）、業況（前期比）はDIで表示。

※業況DI=今期の調査対象企業の業況について前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。予測は今期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 業況と売上高、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測

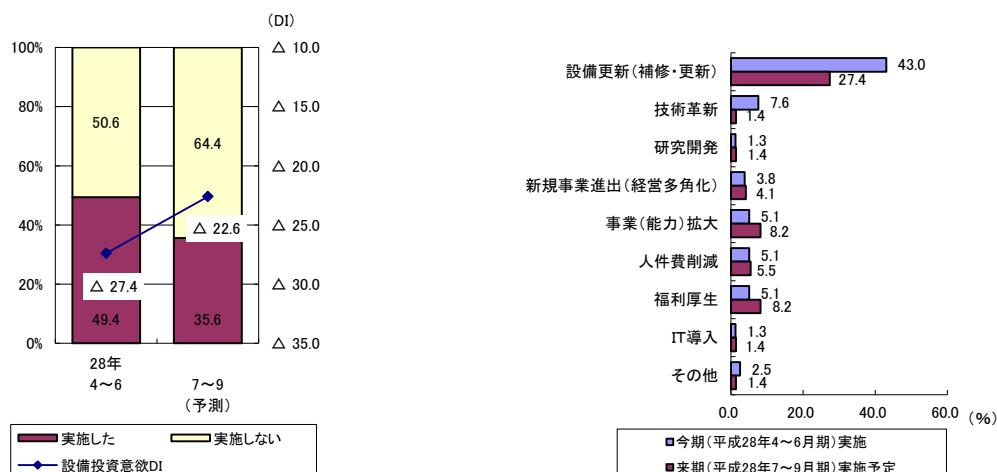


※売上高DI=「増加」とする企業の割合から「減少」とする企業の割合を引いた値。

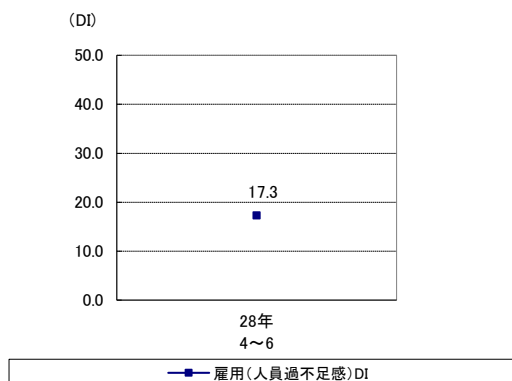
※販売価格DI=「上昇」とする企業の割合から「低下」とする企業の割合を引いた値。

※仕入価格DI=「低下」とする企業の割合から「上昇」とする企業の割合を引いた値。

## 設備投資動向



### 雇用（人員過不足感）DI（％）



### 経営上の問題点（％）

平成28年4～6月期		
第1位	売上(受注)の不振	47.1
第2位	利益の減少	32.9
	機械設備の老朽	32.9
第3位	過当競争の激化	16.5
第4位	原材料(仕入れ)高	12.9
	人件費高	12.9
第5位	求人難	10.6

### 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

平成28年4～6月期		
第1位	減税	58.5
第2位	助成制度(補助金等)	43.9
第3位	新設の融資制度	22.0
第4位	公共事業の増加	15.9
第5位	雇用維持支援	12.2

## 【 製造業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 24.1 ポイントとなりました。  
今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 17.3 ポイントとなりました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 17.3 ポイントとなりました。  
今期の収益 DI はプラス 3.5 ポイントとなりました。

### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI はプラス 3.6 ポイントとなりました。  
今期の原材料価格（前期比）DI はマイナス 10.7 ポイントとなりました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 13.8 ポイントとなりました。  
今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 17.3 ポイントとなりました。  
平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）は 3.4 ポイントとなっています。  
今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期は 51.7%、来期は 32.1%です。次に多いのは、今期では「技術革新」17.2%、来期では「事業（能力）拡大」および「福利厚生」で同率 7.1%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 41.4%、来期 60.7%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 6.9 ポイントとなりました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

経営上の問題点は、第 1 位「売上（受注）の不振」および「利益の減少」が同率で 37.9%、第 2 位「機械設備の老朽」が 34.5%、第 3 位「人件費高」13.8%、第 4 位「求人難」および「為替変動」が同率で 10.3%、第 5 位「過当競争の激化」6.9%の順となりました。

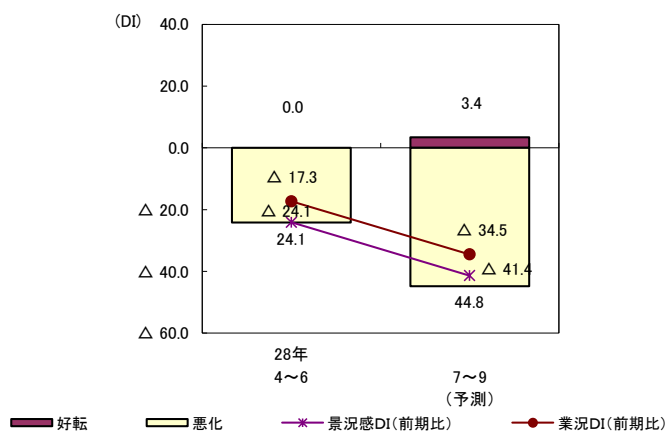
行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」64.3%、第 2 位「助成制度（補助金等）」50.0%、第 3 位「雇用維持支援」17.9%、第 4 位「新設の融資制度」14.3%、第 5 位「研修・訓練」および「異業種交流」が同率で 7.1%の順となりました。

### 来期の見通し

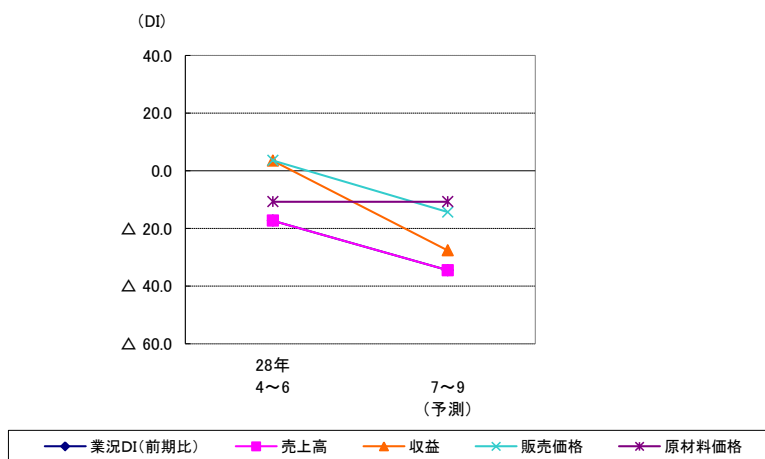
来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 41.4 ポイントで今期より 17.3 ポイント下降、業況 DI はマイナス 34.5 ポイントで同様に 17.2 ポイント下降し、いずれも悪化幅がかなり拡大すると予想されています。また、売上高 DI はマイナス 34.5 ポイントで今期より 17.2 ポイント下降と、減少が大きく強まると見込まれています。



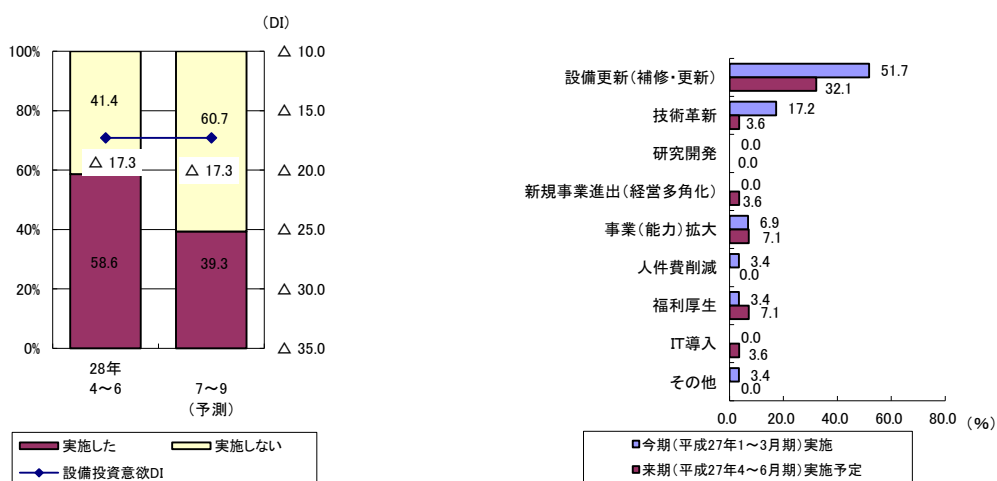
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



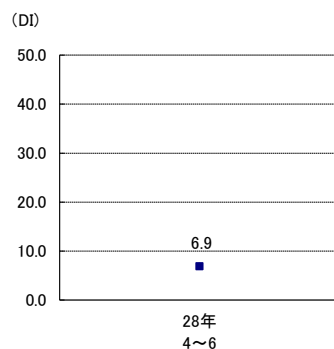
## 業況と売上高、収益、販売価格、原材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



### 雇用（人員過不足感）DI（％）



■ 雇用（人員過不足感）DI

### 経営上の問題点（％）

平成28年4～6月期		
第1位	売上(受注)の不振 利益の減少	37.9
第2位	機械設備の老朽	34.5
第3位	人件費高	13.8
第4位	求人難 為替変動	10.3
第5位	過当競争の激化	6.9

### 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

平成28年4～6月期		
第1位	減税	64.3
第2位	助成制度(補助金等)	50.0
第3位	雇用維持支援	17.9
第4位	新設の融資制度	14.3
第5位	研修・訓練 異業種交流	7.1

### 製造業コメント

- ・ 受注価格は 20～30 年変わらず、もしくはコストダウンしているにも関わらず、最低賃金はどんどん上げられ、我々零細企業の請負金額の保証はないものなのではないでしょうか？
- ・ 先行き不安ですからその辺の情報がほしい。
- ・ 技術の向上。
- ・ 生産管理のノウハウが欲しい。

## 【 建設業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 38.9 ポイントとなりました。  
今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 26.3 ポイントとなりました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 31.6 ポイントとなりました。  
今期の収益 DI はマイナス 5.3 ポイントとなりました。

### 価格動向

今期の請負価格（前期比）DI はマイナス 21.1 ポイントとなりました。  
今期の材料価格（前期比）DI はマイナス 10.6 ポイントとなりました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 15.8 ポイントとなりました。  
今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 31.6 ポイントとなりました。  
平成 28 年度上半期の設備投資計画額(平成 27 年度上半期比)はマイナス 22.2 ポイントとなっています。  
今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新(補修・更新)」で、今期は 35.3%、来期は 25.0%です。次に多いのは、今期では「福利厚生」17.6%、来期では「事業(能力)拡大」および「福利厚生」で同率 18.8%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 52.9%、来期 56.3%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 33.3 ポイントとなりました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

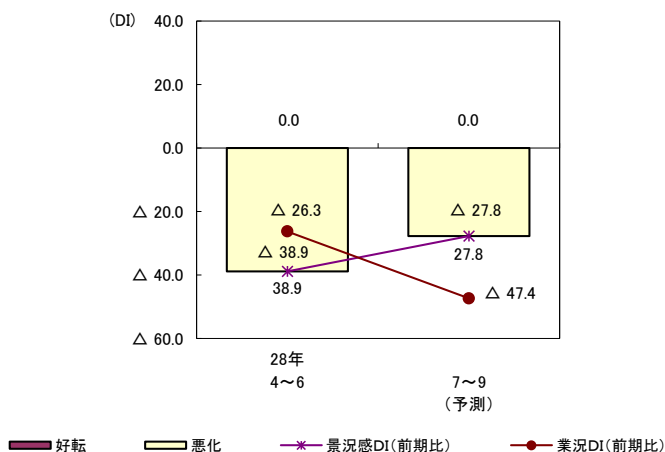
経営上の問題点は、第 1 位「売上(受注)の不振」68.4%、第 2 位「機械設備の老朽」36.8%、第 3 位「利益の減少」21.1%、第 4 位「求人難」、「人件費高」および「過当競争の激化」が同率で 10.5%、第 5 位「原材料(仕入れ)高」5.3%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」および「公共事業の増加」が同率で 44.4%、第 2 位「助成制度(補助金等)」16.7%、第 3 位「新設の融資制度」、「雇用維持支援」および「転職支援」が同率で 11.1%、第 4 位「取引斡旋」5.6%の順となりました。

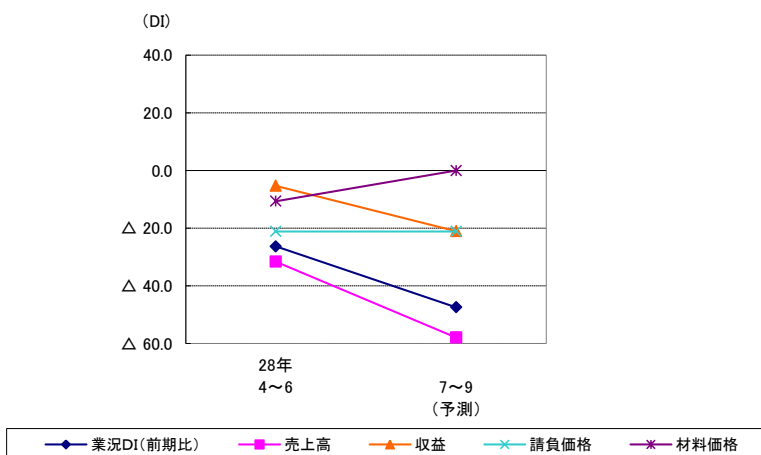
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 27.8 ポイントで今期より 11.1 ポイント上昇し、大きく改善すると予想されています。一方、業況 DI はマイナス 47.4 ポイントで 21.1 ポイント下降し、悪化幅がかなり拡大すると予想されています。また、売上高 DI はマイナス 57.9 ポイントで今期より 26.3 ポイント下降と、減少が非常に大きく強まると見込まれています。

## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



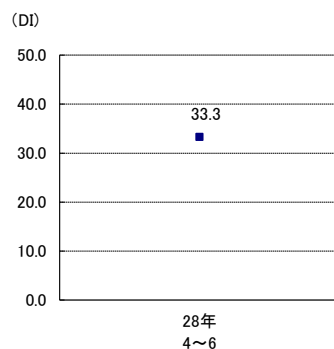
## 業況と売上高、収益、請負価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



### 雇用（人員過不足感）DI（％）



■ 雇用（人員過不足感）DI

### 経営上の問題点（％）

平成28年4～6月期		
第1位	売上(受注)の不振	68.4
第2位	機械設備の老朽	36.8
第3位	利益の減少	21.1
第4位	求人難	10.5
	人件費高	10.5
	過当競争の激化	10.5
第5位	原材料(仕入れ)高	5.3

### 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

平成28年4～6月期		
第1位	減税	44.4
	公共事業の増加	44.4
第2位	助成制度(補助金等)	16.7
第3位	新設の融資制度	11.1
	雇用維持支援	11.1
	転職支援	11.1
第4位	取引斡旋	5.6
第5位		

### 建設業コメント

- ・ 事業廃業準備中。従業員は独立していただきましたが、車輛がそれぞれ違う使い方があり、手離せず維持費がかかり、でも借地の売れない在庫を片付けなければならず、追いかけています。

## 【 小売業・サービス業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 18.2 ポイントとなりました。  
今期の業況については、業況 DI（前期比）は 0.0 ポイントとなりました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はプラス 4.5 ポイントとなりました。  
今期の収益 DI はマイナス 4.3 ポイントとなりました。

### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI は 0.0 ポイントとなりました。  
今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 34.8 ポイントとなりました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 13.6 ポイントとなりました。  
今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 36.4 ポイントとなりました。  
平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）は 0.0 ポイントとなっています。  
今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期は 35.0%、来期は 18.8%です。次に多いのは、今期では「新規事業進出（経営多角化）」10.0%、来期では「研究開発」「新規事業進出（経営多角化）」および「事業（能力）拡大」が同率で 6.3%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 60.0%、来期 75.0%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 10.0 ポイントとなりました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

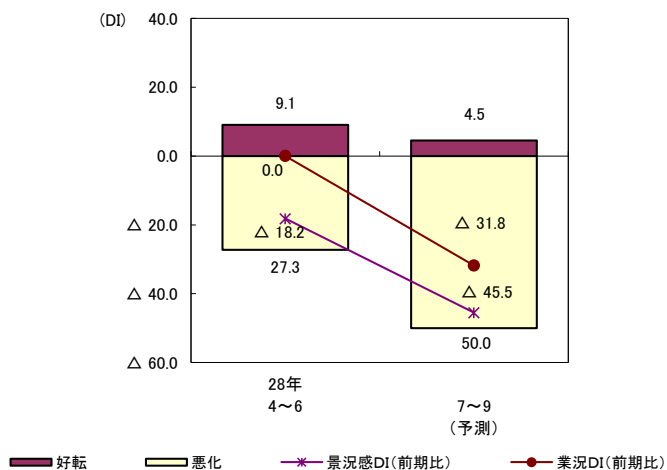
経営上の問題点は、第 1 位「売上（受注）の不振」34.8%、第 2 位「利益の減少」および「原材料（仕入れ）高」が同率 30.4%、第 3 位「過当競争の激化」21.7%、第 4 位「機械設備の老朽」13.0%、第 5 位「販売経費増」「人件費高」および「為替変動」が同率 8.7%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」59.1%、第 2 位「助成制度（補助金等）」36.4%、第 3 位「新設の融資制度」27.3%、第 4 位「セーフガードの発令」および「異業種交流」が同率 13.6%、第 5 位「公共事業の増加」9.1%の順となりました。

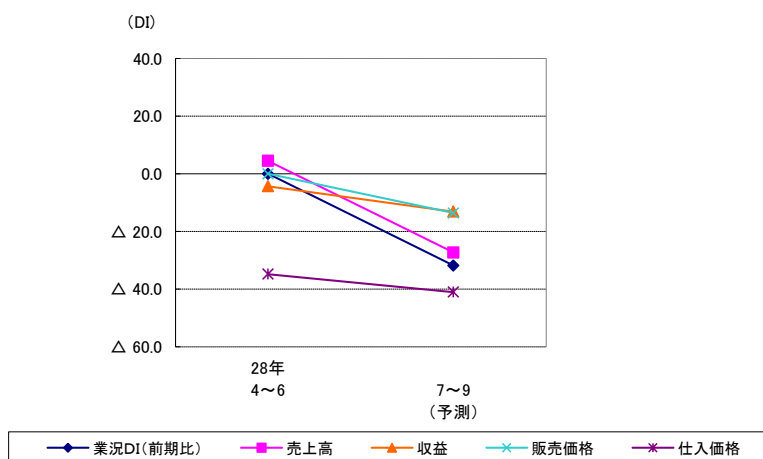
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 45.5 ポイントで今期より 27.3 ポイント下降、業況 DI はマイナス 31.8 ポイントで同様に 31.8 ポイント下降と、それぞれ悪化が非常に大きく強まると見込まれています。売上高 DI はマイナス 27.3 ポイントで今期より 31.8 ポイント下降と、極端に減少に転じると予想されています。

## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



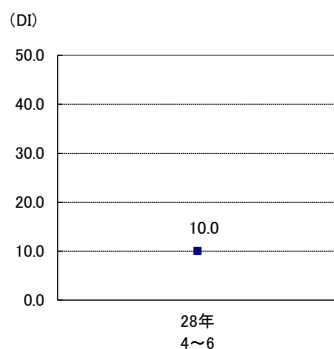
## 業況と売上高、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



## 雇用（人員過不足感）DI（％）



## 経営上の問題点（％）

平成28年4～6月期		
第1位	売上(受注)の不振	34.8
第2位	利益の減少	30.4
	原材料(仕入れ)高	30.4
第3位	過当競争の激化	21.7
第4位	機械設備の老朽	13.0
第5位	販売経費増	8.7
	人件費高	8.7
	為替変動	8.7

## 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

平成28年4～6月期		
第1位	減税	59.1
第2位	助成制度(補助金等)	36.4
第3位	新設の融資制度	27.3
第4位	セーフガードの発令	13.6
	異業種交流	13.6
第5位	公共事業の増加	9.1

## 小売業・サービス業コメント

- ・ 酒類販売については小売酒販組合の販売管理講習会において、値引き販売をすると免許取消すと講義されているが実際の市場では廉価販売をしているスーパー・量販店が多く我々個人事業者は太刀打ち出来ない状況にある。免許制度の根幹をゆるがす大問題だと考えるので、国指導・行政指導でなんとかしてもらいたい。
- ・ 大型店の低価格に個人経営は対応出来ません。時代の流れですね。経営者が高齢の為。
- ・ 大手チェーンの過剰サービスにより、お客様のマナーが著しく低下していると感じます。この先、景気が良くなるということはまずなく、いろいろなアイデアで経営していくしかないと感じます。
- ・ 立地の面があり安定した来客がなく、予定がちづらく仕入れにおいてもロスが多く経営的にむずかしい状況にあります。
- ・ 28年1月～28年8月まで主人入院加療の為、営業は1/4程度。今期一杯は・・・。
- ・ ある観光コンサルタントや業者の方と戸倉上山田温泉の観光について語り合った際、「戸倉上山田の不況は人災ですよ」と言われた。「観光協会のリーダーになるべき人は、農業・芸者衆・従業員・勤め人・飲食店・スナック・バー・納入業者・土産物店などあらゆる住民全体を見極め、これらを一つにまとめ上げなくてはならない。それができない人がリーダーになっても発展はしない。そういうリーダーのいる小布施はあんなに発展しているじゃないですか。やはりリーダーが重要ですよ。戸倉上山田は小布施を参考にし、研究したら良いのでは」とおっしゃっていました。
- ・ 切磋琢磨して僅かに残った利益を法人税で徴収されてします為、次なる投資に結びつかない。資本に限りのある中小企業が生き残れるような税制度が必要不可欠だと考えます。千曲市をあげて、ふるさと納税の獲得により力を入れたらよいと思います。
- ・ イオンモール（大型商業施設の進出計画）の件について、現在の千曲市の人口からして受け入れを慎重に議論しなくてははいけません。この会社が本社機能を持った会社であり、税金面での説明を頂きたい。一部の人が利益を生む社会を作ってはいけません。



## 【 観光・宿泊業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 7.1 ポイントとなりました。  
今期の業況については、業況 DI（前期比）は 0.0 ポイントとなりました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はプラス 7.2 ポイントとなりました。  
今期の収益 DI はマイナス 14.3 ポイントとなりました。

### 価格動向

今期の料金価格（前期比）DI はマイナス 14.3 ポイントとなりました。  
今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 42.9 ポイントとなりました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 35.7 ポイントとなりました。  
今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 28.6 ポイントとなりました。  
平成 28 年度上半期の設備投資計画額(平成 27 年度上半期比)はマイナス 15.4 ポイントとなっています。  
今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新(補修・更新)」で、今期は 46.2%、来期は 30.8%です。次に多いのは今期・来期ともに「人件費削減」で今期 7.7%、来期 15.4%となっています。一方、設備投資を実施しない企業は今期 53.8%、来期 69.2%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 28.6 ポイントとなりました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

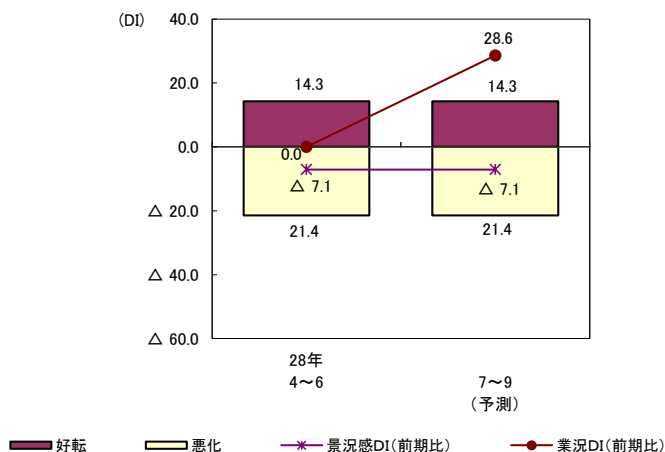
経営上の問題点は、第 1 位「売上(受注)の不振」および「機械設備の老朽」が同率で 57.1%、第 2 位「利益の減少」42.9%、第 3 位「過当競争の激化」35.7%、第 4 位「求人難」「人件費高」および「借入難（割引難）」21.4%、第 5 位「原材料(仕入れ)高」14.3%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「助成制度(補助金等)」78.6%、第 2 位「減税」64.3%、第 3 位「新設の融資制度」42.9%、第 4 位「公共事業の増加」「雇用維持支援」および「研修・訓練」が同率 14.3%、第 5 位「雇用保険の充実」および「産学官の連携」が同率 7.1%の順となりました。

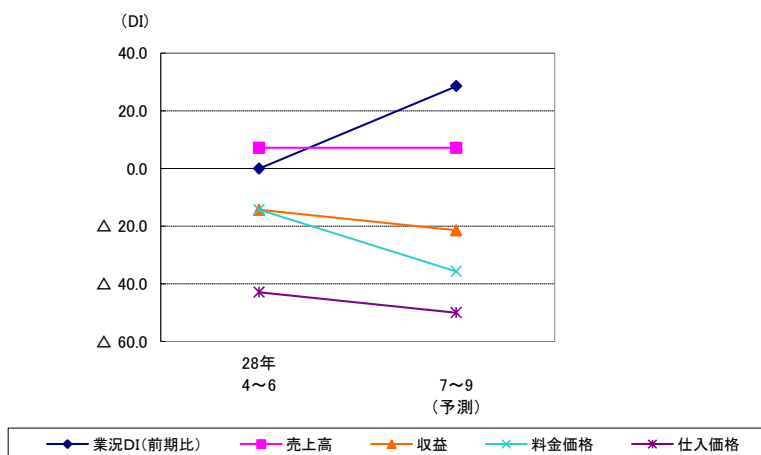
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 7.1 ポイントで今期から増減なく、今期同様の低調感が続くことが予想されています。一方、業況 DI はプラス 28.6 ポイントで 28.6 ポイント上昇し、非常に大きく上向くと予想されています。また、売上高 DI はマイナス 7.2 ポイントで今期から増減なく、今期同様の水準が続くと見込まれています。

## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



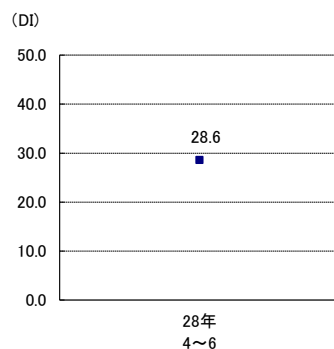
## 業況と売上高、収益、料金価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



## 雇用（人員過不足感）DI（％）



—■— 雇用（人員過不足感）DI

## 経営上の問題点（％）

平成28年4～6月期		
第1位	売上(受注)の不振 機械設備の老朽	57.1 57.1
第2位	利益の減少	42.9
第3位	過当競争の激化	35.7
第4位	求人難 人件費高 借入難(割引難)	21.4 21.4 21.4
第5位	原材料(仕入れ)高	14.3

## 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

平成28年4～6月期		
第1位	助成制度(補助金等)	78.6
第2位	減税	64.3
第3位	新設の融資制度	42.9
第4位	公共事業の増加 雇用維持支援 研修・訓練	14.3 14.3 14.3
第5位	雇用保険の充実 産学官の連携	7.1 7.1

## 観光・宿泊業コメント

- ・ 宿泊業として、外資参入による低価格販売による過当競争が不振の元、金融機関に適正な売り先を選定する等、地域全体で提言し、今後の是正を訴えて下さい。
- ・ 我々業界（旅館業）は、6月は「真田丸」効果で大変な数字がありましたが、7月以降はまた前年のように戻ってしまいました。何とか秋に向けて「真田丸」効果が再度来ることを期待します。

# VI. 転記表

## 戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 4～6 月期

業種：全業種

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目		調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)	
景況感	良い		3.6			
	普通		44.0			
	悪い		52.4			
	DI		△ 48.8			
	好転		4.8		4.8	
	不変		67.5		56.6	
	悪化		27.7		38.6	
	DI		△ 22.9		△ 33.8	
業況	良い		11.8			
	普通		51.8			
	悪い		36.5			
	DI		△ 24.7			
	好転		19.0		11.9	
	不変		50.0		50.0	
	悪化		31.0		38.1	
	DI		△ 12.0		△ 26.2	
売上高	増加		22.6		15.5	
	不変		44.0		38.1	
	減少		33.3		46.4	
	DI		△ 10.7		△ 30.9	
収益	黒字		16.5			
	収益均衡		63.5			
	赤字		20.0			
	DI		△ 3.5			
	改善				13.1	
	悪化				47.6	
販売価格	上昇		10.8		3.6	
	不変		72.3		73.5	
	低下		16.9		22.9	
	DI		△ 6.1		△ 19.3	
	仕入価格	上昇		28.6		28.9
		不変		65.5		65.1
低下			6.0		6.0	
DI			△ 22.6		△ 22.9	
在庫	過剰		9.0		7.9	
	適正		88.5		89.5	
	不足		2.6		2.6	
	DI		△ 6.4		△ 5.3	
資金繰り	好転		4.8		9.5	
	不変		72.6		70.2	
	悪化		22.6		20.2	
	DI		△ 17.8		△ 10.7	
同期比	売上		△ 28.5			
	収益		△ 21.2			
過不足感(人員)	過剰		2.5			
	適正		77.8			
	不足		19.8			
	DI		17.3			
有効回答事業所数			85			

No.2

項目		調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)
設備投資動向	設備投資意欲		△ 27.4		△ 22.6
	設備投資状況		△ 6.4		
	実施した(%)		49.4		35.6
	設備更新(補修・更新)		43.0		27.4
	技術革新		7.6		1.4
	研究開発		1.3		1.4
	新規事業進出(経営多角化)		3.8		4.1
	事業(能力)拡大		5.1		8.2
	人件費削減		5.1		5.5
	福利厚生		5.1		8.2
	IT導入		1.3		1.4
	その他		2.5		1.4
	実施しない(%)		50.6		64.4
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振		47.1	
利益の減少			32.9		
原材料(仕入れ)高			12.9		
原材料不足			1.2		
販売経費増			2.4		
求人難			10.6		
人件費高			12.9		
代金回収困難			1.2		
支払期間の短縮			0.0		
借入難(割引難)			4.7		
金利変動			0.0		
株価変動			0.0		
為替変動			5.9		
設備・店舗の狭小			2.4		
機械設備の老朽		32.9			
過当競争の激化		16.5			
特に問題なし		15.3			
その他		4.7			
行政等に希望する企業支援策(%)	減税		58.5		
	公共事業の増加		15.9		
	新設の融資制度		22.0		
	助成制度(補助金等)		43.9		
	セーフガードの発令		4.9		
	取引斡旋		3.7		
	社債引受		0.0		
	雇用維持支援		12.2		
	転職支援		3.7		
	雇用保険の充実		1.2		
	研修・訓練		4.9		
	異業種交流		6.1		
	産学官の連携		1.2		
	特になし		17.1		
その他		3.7			
有効回答事業所数			85		

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 4～6 月期

業種：製造業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目		調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)
景況感	良い		0.0		
	普通		42.9		
	悪い		57.1		
	DI		△ 57.1		
	好転		0.0		3.4
業況	普通		55.2		51.7
	悪い		34.5		44.8
	DI		△ 24.2		△ 41.4
	好転		10.3		6.9
	不変		62.1		51.7
売上高	悪化		27.6		41.4
	DI		△ 17.3		△ 34.5
	増加		17.2		13.8
	不変		48.3		37.9
	減少		34.5		48.3
収益	DI		△ 17.3		△ 34.5
	黒字		13.8		
	収益均衡		75.9		
	赤字		10.3		
	DI		3.5		10.3
販売価格	改善				48.3
	不変				41.4
	悪化				△ 31.1
	DI				△ 14.3
	上昇		14.3		3.6
原材料 価格	不変		75.0		78.6
	低下		10.7		17.9
	DI		△ 10.7		△ 10.7
	過剰		6.9		13.8
	適正		89.7		82.8
在庫	不足		3.4		3.4
	DI		△ 3.5		△ 10.4
	好転		3.4		10.3
	不変		79.3		65.5
	悪化		17.2		24.1
資金繰り	DI		△ 13.8		△ 13.8
	売上		△ 27.6		
	収益		△ 27.6		
	過剰		3.4		
	適正		86.2		
同期比 (前年 雇用(人員 過不足感)	不足		10.3		
	DI		6.9		
	有効回答事業所数			29	

No.2

項目		調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)	
設備投資動向	設備投資意欲		△ 17.3		△ 17.3	
	設備投資状況		3.4			
	実施した(%)		58.6		39.3	
	投資内容	設備更新(補修・更新)		51.7		32.1
		技術革新		17.2		3.6
		研究開発		0.0		0.0
		新規事業進出(経営多角化)		0.0		3.6
		事業(能力)拡大		6.9		7.1
		人件費削減		3.4		0.0
		福利厚生		3.4		7.1
		IT導入		0.0		3.6
		その他		3.4		0.0
		実施しない(%)		41.4		60.7
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振		37.9		
		利益の減少		37.9		
原材料(仕入れ)高			3.4			
原材料不足			0.0			
販売経費増			0.0			
求人難			10.3			
人件費高			13.8			
代金回収困難			3.4			
支払期間の短縮			0.0			
借入難(割引難)			3.4			
金利変動			0.0			
株価変動			0.0			
為替変動			10.3			
設備・店舗の狭小			3.4			
機械設備の老朽			34.5			
過当競争の激化		6.9				
行政等に希望する企業支援策(%)	特に問題なし		24.1			
	その他		3.4			
	減税		64.3			
	公共事業の増加		3.6			
	新設の融資制度		14.3			
	助成制度(補助金等)		50.0			
	セーフガードの発令		3.6			
	取引斡旋		3.6			
	社債引受		0.0			
	雇用維持支援		17.9			
	転職支援		3.6			
	雇用保険の充実		0.0			
	研修・訓練		7.1			
	異業種交流		7.1			
	産学官の連携		0.0			
特になし		14.3				
その他		0.0				
有効回答事業所数			29			

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 4～6 月期

業種：建設業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目	調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)	
景況感	良い	5.3			
	普通	47.4			
	悪い	47.4			
	DI	△ 42.1			
	好転	0.0		0.0	
	不変	61.1		72.2	
	悪化	38.9		27.8	
	DI	△ 38.9		△ 27.8	
	業況	良い	5.3		
		普通	52.6		
悪い		42.1			
DI		△ 36.8			
好転		10.5		0.0	
不変		52.6		52.6	
悪化		36.8		47.4	
DI		△ 26.3		△ 47.4	
売上高		増加	15.8		0.0
		不変	36.8		42.1
	減少	47.4		57.9	
	DI	△ 31.6		△ 57.9	
収益	黒字	15.8			
	収益均衡	63.2			
	赤字	21.1			
	DI	△ 5.3			
	改善			5.3	
	不変			42.1	
請負価格	上昇	0.0		0.0	
	不変	78.9		78.9	
	低下	21.1		21.1	
	DI	△ 21.1		△ 21.1	
材料価格	上昇	21.1		15.8	
	不変	68.4		68.4	
	低下	10.5		15.8	
	DI	△ 10.6		0.0	
在庫	過剰	5.6		5.6	
	適正	94.4		94.4	
	不足	0.0		0.0	
	DI	△ 5.6		△ 5.6	
資金繰り	好転	5.3		0.0	
	不変	73.7		78.9	
	悪化	21.1		21.1	
	DI	△ 15.8		△ 21.1	
同期比	売上	△ 57.9			
	収益	△ 21.0			
雇用（人員）	過剰	0.0			
	適正	66.7			
	不足	33.3			
	DI	33.3			
有効回答事業所数		19			

No.2

項目	調査期	28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)	
設備投資意欲	設備投資意欲	△ 31.6		△ 42.1	
	設備投資状況	△ 22.2			
	実施した(%)	47.1		43.7	
	投資内容	設備更新(補修・更新)	35.3		25.0
		技術革新	0.0		0.0
		研究開発	5.9		0.0
		新規事業進出(経営多角化)	5.9		6.3
		事業(能力)拡大	5.9		18.8
		人件費削減	5.9		12.5
		福利厚生	17.6		18.8
	IT導入	0.0		0.0	
	その他	5.9		6.3	
	実施しない(%)	52.9		56.3	
経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	68.4			
	利益の減少	21.1			
	原材料(仕入れ)高	5.3			
	原材料不足	0.0			
	販売経費増	0.0			
	求人難	10.5			
	人件費高	10.5			
	代金回収困難	0.0			
	支払期間の短縮	0.0			
	借入難(割引難)	0.0			
	金利変動	0.0			
	株価変動	0.0			
	為替変動	0.0			
設備・店舗の狭小	0.0				
機械設備の老朽	36.8				
過当競争の激化	10.5				
特に問題なし	5.3				
その他	10.5				
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	44.4			
	公共事業の増加	44.4			
	新設の融資制度	11.1			
	助成制度(補助金等)	16.7			
	セーフガードの発令	0.0			
	取引斡旋	5.6			
	社債引受	0.0			
	雇用維持支援	11.1			
	転職支援	11.1			
	雇用保険の充実	0.0			
研修・訓練	0.0				
異業種交流	0.0				
産学官の連携	0.0				
特になし	22.2				
その他	5.6				
有効回答事業所数		19			

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 4～6 月期

業種：小売業・サービス業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

調査期		28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)
景況感	良い	4.3		
	普通	47.8		
	悪い	47.8		
	DI	△ 43.5		
	好転	9.1		4.5
業況	普通	63.6		45.5
	悪い	27.3		50.0
	DI	△ 18.2		△ 45.5
	良い	8.7		
	普通	52.2		
売上高	悪い	39.1		
	DI	△ 30.4		
	好転	31.8		9.1
	不変	36.4		50.0
	悪化	31.8		40.9
収益	DI	0.0		△ 31.8
	増加	31.8		13.6
	不変	40.9		45.5
	減少	27.3		40.9
	DI	4.5		△ 27.3
販売価格	黒字	17.4		
	収益均衡	60.9		
	赤字	21.7		
	DI	△ 4.3		
	改善			9.1
仕入価格	不変			59.1
	悪化			31.8
	DI			△ 22.7
	上昇	13.6		9.1
	不変	72.7		68.2
在庫	低下	13.6		22.7
	DI	0.0		△ 13.6
	上昇	43.5		45.5
	不変	47.8		50.0
	低下	8.7		4.5
資金繰り	DI	△ 34.8		△ 41.0
	過剰	14.3		5.3
	適正	85.7		94.7
	不足	0.0		0.0
	DI	△ 14.3		△ 5.3
同期比	好転	9.1		9.1
	不変	68.2		77.3
	悪化	22.7		13.6
	DI	△ 13.6		△ 4.5
	売上	△ 9.1		
雇用(人員)	収益	△ 13.1		
	過剰	0.0		
	適正	90.0		
	不足	10.0		
	DI	10.0		
有効回答事業所数			23	

No.2

調査期		28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)	
設備投資動向	設備投資意欲	△ 36.4		△ 22.8	
	設備投資状況	0.0			
	実施した(%)	40.0		25.0	
	設備更新(補修・更新)	35.0		18.8	
	技術革新	5.0		0.0	
	研究開発	0.0		6.3	
	新規事業進出(経営多角化)	10.0		6.3	
	事業(能力)拡大	5.0		6.3	
	人件費削減	5.0		0.0	
	福利厚生	0.0		0.0	
	IT導入	5.0		0.0	
	その他	0.0		0.0	
	実施しない(%)	60.0		75.0	
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	34.8		
		利益の減少	30.4		
原材料(仕入れ)高		30.4			
原材料不足		4.3			
販売経費増		8.7			
求人難		4.3			
人件費高		8.7			
代金回収困難		0.0			
支払期間の短縮		0.0			
借入難(割引難)		0.0			
金利変動		0.0			
株価変動		0.0			
為替変動		8.7			
設備・店舗の狭小		4.3			
機械設備の老朽		13.0			
過当競争の激化	21.7				
特に問題なし	21.7				
その他	4.3				
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	59.1			
	公共事業の増加	9.1			
	新設の融資制度	27.3			
	助成制度(補助金等)	36.4			
	セーフガードの発令	13.6			
	取引斡旋	4.5			
	社債引受	0.0			
	雇用維持支援	4.5			
	転職支援	0.0			
	雇用保険の充実	0.0			
	研修・訓練	0.0			
	異業種交流	13.6			
	産学官の連携	0.0			
	特になし	27.3			
	その他	0.0			
有効回答事業所数			23		

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 4～6 月期

業種：観光・宿泊業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

調査期		28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)
景況感	良い	7.1		
	普通	35.7		
	悪い	57.1		
	DI	△ 50.0		
業況	好転	14.3		14.3
	不変	64.3		64.3
	悪化	21.4		21.4
	DI	△ 7.1		△ 7.1
	良い	28.6		
	普通	42.9		
売上高	増加	28.6		42.9
	不変	50.0		21.4
	減少	21.4		35.7
	DI	7.2		7.2
	黒字	21.4		
	収益均衡	42.9		
収益	赤字	35.7		
	DI	△ 14.3		
	改善			35.7
	不変			35.7
	悪化			28.6
	DI			7.1
料金価格	上昇	14.3		0.0
	不変	57.1		64.3
	低下	28.6		35.7
	DI	△ 14.3		△ 35.7
仕入価格	上昇	42.9		50.0
	不変	57.1		50.0
	低下	0.0		0.0
	DI	△ 42.9		△ 50.0
在庫	過剰	10.0		0.0
	適正	80.0		90.0
	不足	10.0		10.0
	DI	0.0		10.0
資金繰り	好転	0.0		21.4
	不変	64.3		57.1
	悪化	35.7		21.4
	DI	△ 35.7		0.0
同期比	売上	△ 21.4		
	収益	△ 21.4		
雇用（人 員）	過剰	7.1		
	適正	57.1		
	不足	35.7		
	DI	28.6		
有効回答事業所数			14	

No.2

調査期		28年 4～6月期	対 前期比	28年 7～9月期 (予想)
設備投資動向	設備投資意欲	△ 28.6		△ 7.2
	設備投資状況	△ 15.4		
	実施した(%)	46.2		30.8
	設備更新(補修・更新)	46.2		30.8
	技術革新	0.0		0.0
	研究開発	0.0		0.0
	新規事業進出(経営多角化)	0.0		0.0
	事業(能力)拡大	0.0		0.0
	人件費削減	7.7		15.4
	福利厚生	0.0		7.7
	IT導入	0.0		0.0
	その他	0.0		0.0
	実施しない(%)	53.8		69.2
経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	57.1		
	利益の減少	42.9		
	原材料(仕入れ)高	14.3		
	原材料不足	0.0		
	販売経費増	0.0		
	求人難	21.4		
	人件費高	21.4		
	代金回収困難	0.0		
	支払期間の短縮	0.0		
	借入難(割引難)	21.4		
	金利変動	0.0		
	株価変動	0.0		
	為替変動	0.0		
設備・店舗の狭小	0.0			
機械設備の老朽	57.1			
過当競争の激化	35.7			
特に問題なし	0.0			
その他	0.0			
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	64.3		
	公共事業の増加	14.3		
	新設の融資制度	42.9		
	助成制度(補助金等)	78.6		
	セーフガードの発令	0.0		
	取引斡旋	0.0		
	社債引受	0.0		
	雇用維持支援	14.3		
	転職支援	0.0		
	雇用保険の充実	7.1		
研修・訓練	14.3			
異業種交流	0.0			
産学官の連携	7.1			
特になし	0.0			
その他	14.3			
有効回答事業所数			14	